

「論語」から人としての生き方を学ぼう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。先週もお話させていただきましたが、毎年11月の第3木曜日はユネスコの「世界哲学の日」です。今年は11月21日でした。
2. 哲学とは、ものごとの価値・意味・秩序を大切に、よく生きることだと思います。私も、何が大切かをよく考えて自分なりに意味付けをし、こんなことをしよう・これはやらないほうがよいのではないかと考えながら常に行動しているつもりですが、なかなかうまくいきません。そこで今日も、哲学の話をしていただきます。
3. 西洋にも東洋にもたくさんの哲学者や思想家がいますが、東洋の思想家の第一人者といわれているのが孔子ではないでしょうか。先週もお話したように、孔子の教えを弟子たちがまとめたものが「論語」で、499章から成っています。今日も、その中のいくつかを皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。
4. その1つは、「子曰(しい)わく、故(ふる)きを温(たず)ねて新(あた)しきを知(し)らば、以(もつ)て師(し)為(した)るべし。」です。これは、「孔子が言った。先人の述べた学、つまり過去のことを考え究め、それを取捨し、選択したものをもとにして現在または未来のことを考える。そうした考え方をする人は、他の模範となり得る師(先生)となることができる」という意味です。
具体的には、「伝統ばかりにこだわると頑固にすぎる。過去を否定して新しいことばかりにこだわると、時流に流される。だから、両方とも必要である」ということだと思います。素晴らしいことばですので、ぜひ知っていただきたいと思っています。
5. 2つ目は、「子曰(しい)わく、学(まな)びて思(おも)わざれば則(すなわ)ち罔(くら)く、思(おも)いて学(まな)ばざれば則(すなわ)ち殆(あやう)し。」です。このことばは、「視たり聞いたりして他から学んだことを、自分なりに深く考えなかったら、道理にくらいものになってしまう・人の道から外れてしまう。逆に、他から学ぶことをせずに、自分の頭だけでもものごとを考えてしまうと、独善に陥る危険がある。だから、よく学ぶことも大事であり、自分で考えることも大事である」といったことを教えてくださっていると思います。

6. 3 つ目は、「子曰(しい)わく、朝(あした)に道(みち)を聞(き)かば、夕(ゆうべ)に死(し)すとも可(か)なり。」です。これは有名なことばで、「その日の朝に正しい道を悟り得たとしたならば、その日の夕方に死んだとしても満足である」という意味です。

具体的には、「人としてあるべき道を悟り得なかったなら、長生きしても何の意味もないものになってしまう」ということだと思います。かなり過激なことばですので、そのまま受け取ってはけません。ただ、そのくらいのつもりでいろいろな勉強をしたほうがよいという教えだと思います。

7. 4 つ目は、「子曰(しい)わく、利(り)に放(よ)りて行(おこな)えば怨多(うらみおお)。」です。これはあまり知られていないようですが、「利益ばかりを考えて行動すると、人の怨みを受けることが多い」という意味です。商売の基本にも当てはまる言葉です。自分の利益本位で行動すると人から怨まれることが多いので、ほどほどにきなさいという教えであると思います。

8. このように、孔子は、現代のビジネスに通じるようなことも含めて、たくさんの教えを「論語」の中で示してくださっています。「論語」は学校の教科書にも載っています。また、本屋さんでも古本屋さんでも売っています。ですから、ぜひ手元に 1 冊置き、時々読んでいただければ有難いです。口ずさむのもよいですね。

9. 毎年 11 月の第 3 木曜日はユネスコの「世界哲学の日」ですので、それにちなんで「論語」の中の教えを 4 つ紹介させていただきました。